

# 食育だより 1月号

平成31年 1月



あいらしりつあいらしょうがっこう  
**始良市立始良小学校**

1月24日は、「給食記念日」です。戦後ユニセフの救援物資(LALA物資)でミルクとパンの給食が始まって50年あまりがたちました。当時は食べ物がなく、子どもたちの栄養補給が第一の目的でしたが、子どもたちの体位も向上してきた今日では「栄養補給」もさることながら、食事を通して「人間関係の形成」や「マナーの体得」、また「地域に根ざした給食」へ役割も変わってきています。

## 学校給食週間って知っていますか？

1月24日～30日は給食週間です

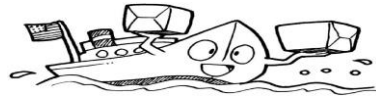
戦後昭和21年12月24日から学校給食がはじまりました。学校が冬休みなので、一か月おくれの1月24日が「給食記念日」になりました。



そのころの小学生6年生は、今の4年生くらいの体の大きさでした。



昭和20年、今から65年くらい前、日本は戦争が終わったばかりで、食料が不足し、みんなおなかをすかせていました。



日本の子どもたちの様子を見てアメリカから脱脂粉乳などがたくさん送られて給食を始めることになりました。

## Q 戦前、給食はいつからはじめていたのでしょうか？

明治22年、山形県鶴岡市の私立忠愛小学校で、貧困児童を対象に行われたのが学校給食のはじまりといわれています。この時代の献立は、おにぎり、塩さけ、お漬物だったといわれています。明治22年といえば、「赤とんぼ」を作詞した三木露風が生まれた年で、庶民の多くは着物を着ている時代でした。餓死してしまうような深刻な不況が続き、貧しい人々も多かったため、給食の提供が行われていたのです。



いつも何気なく食べている給食ですが、どんな人たちの協力を経てみなさんの口に入るか、考えてみましょう。



あいらし、始良市では、学校給食を活用した食品ロス削減と地場産物の活用をテーマに国の事業をうけて、取り組んでいます。



## 知ってください！！食品ロスについて

まず、○に入る数字を考えてみてください。



食品ロスとは、本来は食べられるのに、捨ててしまう食べ物のことをいいます。

① 日本の二酸化炭素排出量は、○番目に多い

② 日本では、○%の食料を海外から輸入。



③ 世界では、○人に1人の人が飢えに苦しんでいる。

①5番目 中国、アメリカ、インド、ロシアに次いでワースト5位です。1人あたりの排出量も、世界平均の2倍以上です。



②61% 日本の食料自給率は39%です。

③9人に1人 飢餓に直面している人のほとんどがアジアやアフリカなどの発展途上国で生活しています。



## なぜ食品ロスを減らしたほうがいいの？

1大切な自然を守るにつながります。



食べ物を作るときには、水を使ったり地球温暖化の原因である二酸化炭素を出したりします。食品ロスを減らすと、使う水や排出する二酸化炭素の量を減らせます。

2食べ物の輸入を減らせます。



日本は、たくさんの食べ物を海外から買っています。食品ロスを減らすと自給率も上がり、3「ありがとう」の気持ちを表せます。

食べ物を大切にすることは、いろいろな命や食べ物に関わった人々への「ありがとう」のメッセージになります。

